

I 認証評価結果

大島商船高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている。

主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 国際交流推進室を設置し、シンガポールマリタイムアカデミー、カウアイコミュニティカレッジ、高雄海洋科技大学の3校との提携協定に基づき、学生交流、海外英語研修、海外研究活動に加え、当校外国人留学生との交流活動など、世界とつながる様々な機会を提供し、交流活動後に全学向けの報告会を設け、学生自身の体験を報告させていることは、特色ある取組である。
- 商船学科・情報工学科4年次の「創造演習」及び電子機械工学科2年次の「創造設計」において、個人又は少人数グループを対象に課題を設定し、問題解決策を考えさせることを通じて創造性を養っている。例えば、電子機械工学科の「創造設計」においては、学生を1班10人程度に班分けし、各回、各教員が課題を与え、教員が説明した後、学生にレポートを作成させ、最後に発表させる。「プラズマに関する導入教育」の例では、課題に取り組むだけでなく身近に存在するプラズマの実例を考えさせる、レポート内容を発表させるなどし、そのときの内容に応じて追加課題を与え、考察を深めさせるよう工夫することを通じて、学生の持つ創造的能力を高めるよう努めている。
- 電子・情報システム工学専攻の「創造工学演習」において、与えられた課題に対して、学生が自分たちの考えを整理し、課題を列挙し、かつ解決手段を見出し、全体像をイメージしながら細部まで考え抜かせることが必要であると考え、授業では、アイデアをメモ用紙に記入させ次第に統一的なアイデアにまとめていく親和図法を採用することを通じて、学生の創造的能力を高めている。
- 就職について、準学士課程、専攻科課程ともに就職率（就職者数/就職希望者数）は極めて高く、就職先も運輸・海事産業や製造業、情報通信業などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても、準学士課程の進学率（進学者数/進学希望者数）は極めて高く、準学士課程、専攻科課程の進学先は、学科・専攻の専門分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系・商船系の学部や研究科となっている。

主な改善を要する点として、次のことが挙げられる。

- 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「求める学生像」は明文化されているが、もう一つの構成要素である「入学者選抜の基本方針」については、考え方は教職員に共有されており、実際の入学試験に反映されているものの、明文化されていない。
- 学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価の項目が定められ、報告書が公表されているものの、学校として策定した点検・評価項目に対する評価基準が必ずしも明確にされていない。
- 前回の認証評価において改善を要する点として指摘された基準6に関する事項が今回の認証評価においても同様に指摘されるなど、第三者評価の結果を反映する改善システムが十分に機能しているとはいえない。